



# 花さき山

タイトル文字: 滝平二郎



## イベントインフォメーション



### おはなし会

9月13・20日(日)  
14:00~14:30

▽13日は読み聞かせボランティアさんと、  
図書館スタッフによるおはなし会

(場所: 児童室)

▽20日は「やまびこ」さん  
によるおはなし会

(場所: 視聴覚室)

### ブックスタートクラブ

毎週水曜日 視聴覚室解放

9:00~17:00

ボランティアの方や子育て支援センター  
の先生による子育て相談や絵本の読みきかせ↓

9月 2・9・**16**日(水)

10:00~11:30

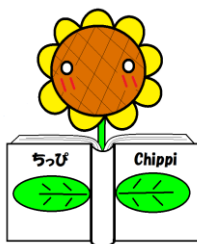
※丸数字は 11:00~11:30

★スタンプカードをお配りしています。  
おはなし会に参加するとスタンプを1こ  
おします。  
スタンプ5こでプレゼント贈呈!



## ごほうこく

## 「夏休み特別企画」を開催いたしました



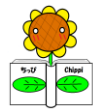
8月2日(日) ~戦争おはなし会~  
「まちゃんと」、「いわたくんちのおばあちゃん」、  
「せかいていちばんつよい国」を読みました。幅  
広い年代の方々にご参加いただきました。



8月9日(日)  
~光る! 泥だんご作り~  
磨いて磨いて、がんばりました!  
暑い中、ご参加ありがとうございました!!



図書館カレンダー、特集コーナーはご来館の際、ご確認ください。



竹山直七遺稿「歴行十年」出版の縁と編集の取り組み

— 結城・下館時代の蕪村 —

萩原 みち子

島田 昌志

私は直七先生と同じ班の者です。生前の直七先生の事は、「塾の先生」としか、知りませんでした。一年前より、桐原先生の郷土史の勉強会に出席する様になり、直七先生が郷土史の先生であり、又「加波山事件百年」の時、活躍した話も聞きました。この様な事から、直七先生の郷土史の、資料、内容について、興味を持ち、又今その資料等どうなっているのか、気になっていました。そんな折、「蕪村の十年・・・」の研究資料が校正までしてあるとの話を聞き、桐原先生に相談を致しておりましたが、息子さんが地元におられないので難しいとの事でした。ところが先生に相談した日の夕方偶然にも会うことが出来、「本にしたいので、資料をお借りしたい」と相談したところ、快く資料を借り受けることができました。なんとという御縁でしょう。「直七先生との縁」言葉では、表すことのできない何か、を感じました。

歴行十年というタイトルは、中村家文書「夜半亭発句帖下」宝暦五年（1755）二月刊、宋阿十三回忌追善句集の跋文、「阿師没する後、しばらく、かの空室に坐し遺稿を探て、一羽鳥という文、作らんとせしも、いたづらにして、歴行する事十年の後・・・釈蕪村。」これよりとったものです。

私は、歴史はロマンという単純な考えだけで飛び込んだ郷土史講座ですが、その充実した講座内容に驚いております。

講座二年目の私に思わぬことが起こりました。それは、同講座生の萩原さんより、「歴行十年」という下館・結城時代の「蕪村」についての本の発行の手伝いを願いたいとの依頼があり、始めは受けるかどうか悩んだのですが、同じ講座生の頼みと思い、軽い気持ちで引き受け、原稿を見て驚きました。

蕪村について知っていることは、名前、俳句を作る、絵を描く、その位の知識しかありません。受けるのではなかったとの後悔で一杯となりました。

「漢字」なんと読む、どんな意味、頁をめくる毎に、新たな展開に暗くなるばかりでした。

校正に入ると、字の大きさ、仮名を付けるか、付けないか、行間をどの位にするか、誤字脱字等々、額を突き合わせて、何度校正した事か。

一つ、傑作というか、なんとも情けないというか、表紙の「竹山先生遺稿」の「竹山」がどうしても「中山」になってしまい、桐原先生から何度指導を頂いたことか、今になれば、笑い話です。

楽しいこともありました。それは文章の中に、知っている地名、場所が出てくるたびに、「そこには、何が」と思うようになり、「そこに行ってみよう」と、カメラ片手に現地に向かいました。弘経寺、蕪村、雁宕の句碑などを記録しました。

作品が形になるにつれ、図示、写真を取り入れた作品にしたかったとの思いもあります。

今回この取り組みに参加させて下さった、萩原みち子さんと桐原先生の御指導に心よりお礼申し上げます。

(はぎわら みちこ、しまだ まさし 郷土史家)

☆『歴行十年 蕪村の結城下館時代 竹山直七遺稿』（竹山 直七/著）は、図書館内、地域資料コーナーに所蔵しております。ご興味のある方は、ぜひお立ち寄りください。